

茶園の簡易改植法と早期成園化技術

◎ 簡易改植法

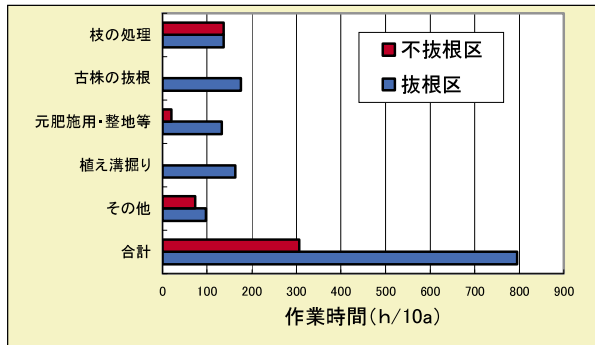


図1 古株の不拔根定植法による主な作業時間の削減効果



写真1 マルチ(JPシート)被覆内で古株から伸長した芽
※ もやし状となり、マルチに接触した部分は枯死している。

◎ 早期成園化技術

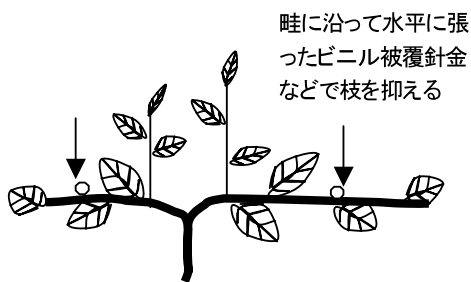


図2 誘引模式図



写真2 誘引後生育した茶株

本県の主要な茶産地では、樹齢30年以上の高樹齢化した茶園が80%以上を占め、収量・品質の低下が懸念されています。しかし、労力がかかることや成園になるまでに通常7年必要なことから改植は進んでいません。そこで、労力が少なく済む簡易な改植法と成園化までの期間を短縮できる新技術について検討しています。

新技術では苗の新植に際して古株を抜根しない方法とすることで、作業時間を慣行（古株を抜根）に比べ約60%短縮できます（図1）。また、残った古株にはマルチ（JPシート、黒）を被覆することで新芽の発生

を抑制できます（写真1）。

改植した茶苗は、枝を3月に1回横方向に誘引することで、樹高は慣行と同程度となりますが、株張りが広くなり早期成園化できます（写真2）。また、誘引用資材として、ビニル被覆針金を用いることで枝のたわみも少なく、作業時間を短くできます（図2）。

現在、古株を枯死させる方法や誘引回数、誘引の高さなどについてさらに検討しています。

（茶業試験場 邑田修三 0889-32-1024）